

指導資料



鹿児島県総合教育センター
平成29年4月発行

生徒指導 第70号

対象
校種

幼稚園

小学校

中学校

高等学校

特別支援学校

SNS利用を踏まえた児童生徒の人間関係づくりへの 指導・支援の工夫 ー構成的グループエンカウターの実践を通してー

スマートフォン等の普及に伴い、いつでもつながるネット上の交流が学校における児童生徒の人間関係に大きな影響を与えている。そこで、「学校楽しいと」と「SNSチェックシート」を使ったアセスメント結果を基に、意図的に設定した構成的グループエンカウターの実践を通して、児童生徒の人間関係づくりへの指導・支援を提案する。

1 SNS利用を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の必要性

インターネット社会が進展したことに伴い、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）等で誰もが気軽に自分の気持ちや考えを発信しやすくなった一方で、相手の立場や状況を慮ることができずに、SNS上で友達関係が悪化して改善できなかったり、ソーシャルスキルの未熟さから対面で会話をすることに苦手意識をもったりするなど、人間関係の希薄化・閉塞化の問題が浮き彫りになってきている。

集団活動を基本とする学校において、児童生徒一人一人が存在感をもち、共感的な人間関係を育みながら、自己実現を図っていく「豊かな人間関係づくり」は、達成すべき重要課題である。そのために、自己の理解や他者と関わる力を身に付けさせるための意識的な取組がこれまで以上に求めら

れている状況にあり、児童生徒のSNS利用を踏まえた「豊かな人間関係づくり」について、積極的な指導・支援が必要と考える。

2 児童生徒のSNS利用実態を捉える指標となる質問紙「SNSチェックシート」

SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の的確な指導・支援を行うには、児童生徒のSNSの利用実態を客観的に把握する指標が必要である。そこで本課では児童生徒の実態を捉えるため、「SNSチェックシート」を開発した。このシートはSNSの利用状況と利用時の心理状態を把握する全20の質問項目で構成している。学校適応感を測る「学校楽しいと」と併せて実施することで、児童生徒を多面的・多角的に理解するアセスメントシートとして活用できる。詳細は当センターのWebサイト及び研究紀要第121号に記している。

次に示すのは「学校楽しいーと」（図1）と、「SNSチェックシート」（図2）の学級のレーダーチャート及びそのアセスメントの例である。

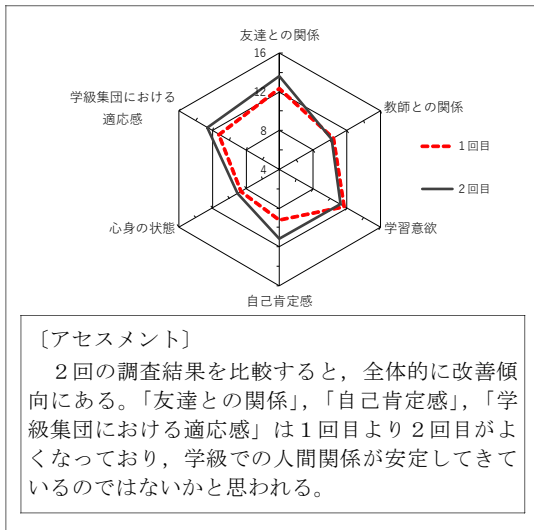


図1 「学校楽しいーと」とアセスメント

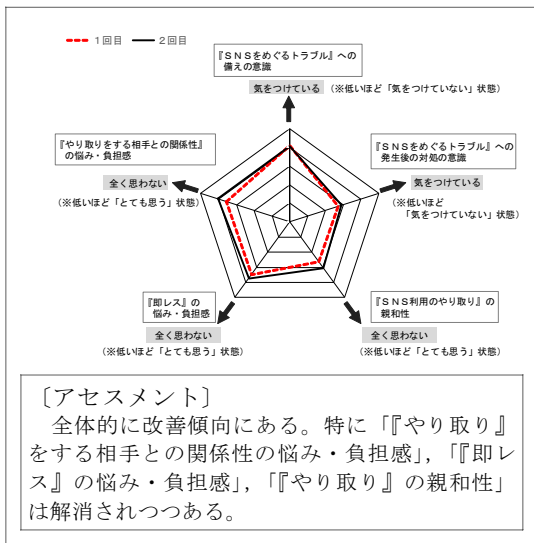


図2 「SNSチェックシート」とアセスメント

学校における「豊かな人間関係づくり」を進めるためには、客観的指標に基づく実態の把握・分析を行い、検証改善サイクル（R-PDCAサイクル）を基にした年間計画を策定し、SNSの利用の影響を考慮したリレーション（触れ合い）づくりを目的とする構成的グループエンカウンター（以下「SGE」という。）を計画的に実践することが必要である。

3 SGEのねらいとエクササイズの実践

(1) SGEのねらい

SNSの利用が日常になっている児童生徒は、学校の人間関係が学校の外でも24時間ずっと続く状態になっている。そのため児童生徒の中には、周囲に合わせてうまくやっつけようとするあまり、自分の感情を無意識のうちに押し殺してしまうこともあると考えられる。

SGEは、触れ合い（リレーション）と自己発見を促進するものである。「ホンネとホンネの交流」によって自分のホンネに気付き、気付いたホンネを表現・主張し、他者のホンネを受け入れることである。それはこれまで気付いていない新たな自分に気付くことにつながる。そこで、児童生徒の人間関係づくりには、SGEを年間計画にしっかりと位置付け実践することが必要である。

(2) エクササイズ実践上の留意点

SGEでは、ねらいを達成するためにふさわしい体験活動として、エクササイズを行う。エクササイズを実践するに当たって特に留意することは、リーダーとなる教師自ら率先して自己開示をすること、他者の言動を否定せず肯定的に受け止めること、エクササイズ実践後、周りの人と自分の気付きや思いを交流するシェアリングを必ず行うことである。

4 年間計画に基づいたSGEの実践例

中学校第3学年の学級での活動を想定した年間計画例【R-PDCAの1サイクル（中略）】を次のように策定した。

期	活動内容
1 学期 前半	R : Research 調査 ☐ 学級のSNS利用等の実態を把握する。 ・「学校楽しいーと」、「SNSチェックシート」を実施する。 ・調査結果に基づく簡単な面談や家庭訪問、前学年担当から情報収集を行う。
	P : Plan 計画 ☐ 学級の「課題」、「目標」を設定する。 〔課題〕 最上級生として、学校のリーダーとしての自覚をもった行動が望まれるが、2年生時から続く友人関係のトラブル、グループの固定化、長時間の利用や相手を中傷する内容を書き込む等のSNS利用上の問題等、人間関係を巡るトラブルが表面化してきている。また、グループに入れず孤立感を深めている生徒、不登校や仲間外し等の経験から自己肯定感が著しく低い生徒もいる。 〔目標〕 SNSとの正しい関わり方を理解し、互いのよさや個性を認め合い、思いやりの心をもって行動できる生徒を育成する。
2 学期 前半	D : Do 実行例 ☐ 自己理解・他者理解や自己開示・相互理解を中心に学級集団への適応を図る。 ・全員を対象とした面談を実施し、生徒のよさを伝える。 ・エクササイズ「二者択一（SNS版）」を実施し、生徒自身の自己開示を促しながら人間関係づくりを図る。 ☐ SNSの特徴や、SNSを利用する上で人間関係を大切に注意点を学習する活動を実施する。 ・SNSのメッセージのやり取りで生じる課題を扱ったワークシート「うまく伝わらない」を使ってグループ活動を行い、SNSと対面のコミュニケーションの違いと問題点に気付かせる。
	C : Check 点検 ☐ 生徒のSNS利用等の実態を把握する。 ・全員に2回目の「学校楽しいーと」、「SNSチェックシート」を実施する。 A : Act 修正 ☐ 「目標」を修正する。

【実践例1】

二者択一「どっちを選ぶ？」（SNS版）

(1) ねらい

- お互いの好みや考え方を伝え合うことで、本音を言える関係づくり、相互理解を進める。
- SNS版として、選択肢にSNSを入れることで、児童生徒の現在の利用状況の確認及びSNSについての考えを知ることができる。

(2) ワークシート

- どちらかを選ぶ必要があるとき、あなたならどちらを選びますか。

選ぶもの (○で囲む)	友達意見メモ（参考になる意見をメモしましょう）
ア スマートフォン	
イ タブレット	
ア テレビ	
イ 動画	

ア 本	
イ インターネット	
ア SNS	
イ 電話	

(3) 展開

- ア シートの各項目のどちらか一つを選択する。
- イ ペアを作り、シートを交換する。

ウ なぜそれを選んだのか、相手に理由を説明する。相手に聞きたいことがあったら聞いてみる。

エ 2人の話の中で、他のみんなに紹介したくなったことや気付いたことなどを発表したり、他のペアの話の聞いたりする。（シェアリング）

(4) 展開例（T：教師 S：生徒）

T 今日は、みんなにどちらか選んでほしいものをワークシートに書いてきました。二つのうちどちらかを選んで、選んだ理由も一緒にペアの人に伝えてください。あまり考え込まずに直感的に思いついたものを答えてください。ここで守ってほしいルールの一つ言います。相手の人が選んだもの、選んだ理由を絶対に否定しないこと。相手の話をうなずきながら聴いてください。

では、先ず先生がやってみます。（モデリング）先生はスマートフォンとタブレットならスマートフォン、テレビと動画ならテレビ、本とインターネットなら本、SNSと電話ならSNSを選びました。スマートフォンは小さくて手軽ですからね。テレビで「名探偵コナン」を見るのが先生の唯一の楽しみなんです。本を読むのは子供のころから好きです。まあ、先生の小さいときにはインターネットはありませんでしたけど。SNSは、たくさんの人と連絡を取り合えるので便利だなと思っています。以上です。では、隣の人とペアになりやってみてください。（個→ペア活動）

（シェアリング）

T では、ペアの人との話の中で、他のみんなに紹介したくなったことや気付いたことを発表してくれる人はいませんか。

S1 私たちは二人ともタブレットを選びました。この前、社会の授業でタブレットで東京スカイツリーの3D画像を見たときは、スマホよりも画面が大きくて迫力がありました。指を使って大きくできるので、便利ですね。

T（拍手）はい、ありがとう。タブレットを使って勉強している人は増えているそうですね。他、ありますか。

S2 僕たちは、ネット配信される動画のことで盛り上がりました。テレビ中継されないライブがネットで見られるのはスゴイ！

T（拍手）何を使ってどこで見てるの？

S3 スマートフォンかノートパソコンを使って、家の自分の部屋で見る人が多いです。僕は動画を見た感想をSNSで友達に伝えています。

S4 僕の学習塾の連絡はSNS中心なんですけど、この前、夏休みの授業日程の連絡が来ていたことに気付かず困ったことがありました。電話は伝わったかどうかその場でわかるので、僕は電話派です。

S5 私は、SNSをしたことがないので、S6さんが塾の友達とSNSを使って数学の問題を教え合っていると聞いて、うらやましいなあと思いました。今度SNSのやり方を教えてもらおうと思っています。

- S7 私は、このエクササイズをやってみて、いろいろな考えがあるなあと思いました。私は図書館で本を読むことが好きなのですが、ネット検索をする目的で図書館に来ている人もいたので、今度私もやってみようと思いました。
- T (拍手) ほんとういろいろな考えがありますね。二つのうちどっちを選んでも、それはみんなそれぞれの考えです。どっちがいいなんてありませんよ。自分の思ったことを隠さず友達に伝えることができたことで、気持ちがすっきりした人が一人でもいたらいいなあ、先生は思います。

【実践例2】

「うまく伝わらない」

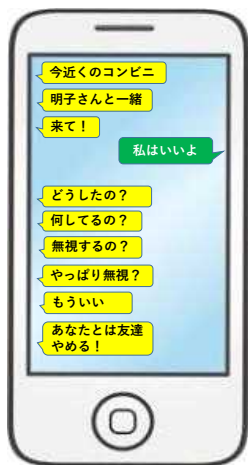
(1) ねらい

- 文字だけでは自分の考えが相手に正しく伝わらない事例から、情報を正しく発信し受け取る上で必要なことを理解する。
- メール等のやり取りでトラブルになったときの解決方法について考え、意見を交流する。

(2) ワークシート

直美さんは、友だちの由美子さんに「今近くのコンビニ。明子さんと一緒に来て！」とSNSでメッセージ送ったところ、由美子さんから「私はいいよ」と返信が来ました。直美さんと明子さんは30分待っても由美子さんが来ないので、SNSで連絡をとりますが返信がありません。怒った直美さんは、SNSに「もうあなたとは友達やめる」と書き込みました。

用事を終えたあとそれを見た由美子さんはなぜ直美さんが怒っているかわからず困ってしまいました。



(3) 展開

ア ロールプレイを行う。

- 役を代えて相互に演じる。
- どのような気持ちになったのか、どのようなことを考えたのか、シェアリングする。

イ 次の3点について考える。

- なぜ直美さんは、由美子さんが来てくれると思ったのでしょうか。
- 自分の思いや考えを相手に正しく伝えるためには、どうすればよいと思いますか。
- 由美子さんはこのあとどうすればよいと思いますか。

ウ 自分の考えをまとめ、次にグループの友達の意見や話し合ったことをまとめる。

(4) 展開例 (T: 教師 S: 生徒)

T 「うまく伝わらない」を読んでロールプレイをしてください。(しばらくして) それでは役を代わってください。演じてみてどんな気持ちになったのか感じたことを伝え合ってください。(シェアリング) では、3点について初めに自分の考えをワークシートに書いてください。その後、グループで自分の考えをそう考えた理由も一緒にそれぞれ説明してください。この学習を進めるときの約束です。他の人の考えを絶対に否定しないこと。うなずきながら相手の話を聴いてください。疑問に思ったことを質問するのはいいですよ。始めてください。(個→グループ活動)

- T では、第1の問いについてグループでどんな意見が出ましたか。1班、発表してください。
- S1 私たちのグループでは、「いいよ」は「OK!」と「いらない、だめ」などの二つの意味に受け取られる言葉だから、誤解が生まれたという意見が出ました。
- T (拍手) そうですね。「いいよ」は二通りの意味に取れる言葉ですね。使うときは注意する必要があります。次、第2の問いに対してどんな意見が出ましたか。2班、お願いします。
- S2 短いメッセージだと、こんな誤解が生まれると思うので、行けないのであればちゃんと理由までつけて「行けない」と送ればよいという意見が出ました。でも、実際にSNSをやっている人は、長い文は送らないと言っていました。なんかこれ自分もやりそうっていう人もいました。
- T (拍手) 3班どうですか。
- S3 私たちの班では、SNSのメッセージではなく、電話で話せばいいのという意見もありました。
- T (拍手) 自分もやりそうっていう意見があったということだけど、やりそうって思った人いますか。(何人か挙手) はい、ありがとうございます。短いメッセージ交換を次々にするSNSでは誤解が生まれることも多そうですね。では、第3の質問、誤解からけんかになった二人、このあとどうすればよいと思いますか。4班、お願いします。
- S4 SNSで「違う、誤解だ」と送るのではなく、次の日、学校で直接話すことが必要だと思います。
- T (拍手) そうですね。なぜ来なかったのか直接由美子さんが説明することが解決の第一歩だと先生も思います。では、感想シートに今日の学習の感想を書いてください。

SNSの利用による人間関係のトラブルを未然に防ぐためには、客観的指標によるアセスメント結果を基に意図的に位置付けたSGEの実践が有効である。児童生徒・教師が相互に肯定的な関わりをもてるとなると、児童生徒は積極的に自己開示ができるようになり、「ホンネとホンネの交流」は深まることが期待できる。この自己理解や他者理解、他者との交流をねらいとするSGEを年間計画に計画的に位置付けることで、SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」を育むことにつながると思う。

－参考文献－

- 総合教育センター研究紀要第121号、平成29年
- 國分康孝・片岡智治著『構成的グループエンカウターの原理と進め方』2001, 誠信書房

(教育相談課)